

シナモロール最強伝説  
うっかりペネロペVS  
シナモン

なおチュウ

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

ある日、ペネロペはうっかり、

サンリオの世界を支配しようと

サンリオにやってきました。

ペネロペと、サンリオの戦いが

今始まる。

# 目次

第1話 ペネロペVSフエアリル

1



# 第1話 ペネロペVSフェアリル

ある日ペネロペは、サンリオの世界を

うっかり支配したくなりました。

「よーし、わたし、サンリオの世界にいくぞー」

~~~~サンリオの世界~~~~

「わー、ここが、サンリオの世界か〜」

ペネロペが感激していると、

「きみ、何してるの?」

リルリルフェアリルのりつぶが、声をかけてきました。

それを、ペネロペは、

「サンリオを支配しにきたんだ」

「え?」

「くらえ、うっかり粉碎段（パルヴァライゼーションパンチ）」

ドバアーン!!

「ぐはっ」 バタッ

ペネロペはうっかり倒しました。

「うっかり」

ペネロペが、うっかりしていると後ろから

「うっかりじゃないよ!」

「え?」

ペネロペは、振り返りました。

「よくも私たちの仲間を、許さない」

リルリルフェアリルの中のフラワーフェアリル、

ローズとその仲間たちがやってきました。

「植物妖精魔法 ローズブラスト」

ローズは、怖い顔をしながら、

ペネロペに攻撃を始めました。

「うっかり破壊光線」

ヒューンバ——ン!!

バタッ

「ローズ!!よくもローズを!」

「次に私と戦う子たちはだれ?」

「さて、このフェアリルゴールが相手だ!」

なんと、レジエンドフェアリルが現れました。

「いくぞ、レジエンドフェアリーキャノン」

「だったら私も、うっかり破壊光線」

ヒューンドドドドドッ

「なかなかの攻撃だね!でも私は負けない!」

うっかり威力上昇」

「なんだと、レジエンドフェアリーキャノンが押し負けている!」

ヒューン ドバーン!

「うわー!」

ペネロペは、うっかりとフェアリルゴールにビームを浴びせました。

「中々やるな!だが、私はレジエンドフェアリル、そう簡単にはやられない!レジエンド

フェアリースード!」

フェアリルゴールは、魔法で剣を作り出しました。

「すごい、剣が出てきた、私も、うっかりブレード!」

ペネロペもうつかり剣を作り出しました。

「レジェンドブリンガー！」

ものすごい勢いで剣を振り下ろします。

「わあ、危ない」

ペネロペは、攻撃をかわします。でも、

ズババババツ

レジェンドブリンガーは、一回の攻撃では、ありません。

「痛いよー、うわーん」

ペネロペは、身体中を切られて、泣いてしまいました。

「ふん、泣くなら最初からこの世界を征服するもんじゃないぞ！」

フェアリルゴールは、ペネロペに言い聞かせます。

「次、仲間たちを傷つけてみる、お前を殺す」

ペネロペに1つ忠告をしました。でもペネロペは、

「うつかり自己再生！」

ペネロペは、重症の切り傷を、直しました。

「あーあ、痛かった」

「こいつは、化け物か……」



フェアリルゴールは、ペネロペの回復力をみてゾツとします。

「お返しするね、うっかりフルバーストスラッシュユ！」

ペネロペは、うっかりブレードを破壊するほどの斬撃波で、フェアリルゴールを攻撃します。

ギギギギギツ

「中々の力だ、だが、この剣には届かない」

斬撃波をレジエンドフェアリーソードで受け取りました。

「たしかに、この剣には、ダメみたいだね、でも、この剣ならどうかな？うっかりバー  
!!」

ペネロペは、うっかり、伝説の聖剣エクスカリバーと同等の、剣を作り出しました。

「この剣でやったらどうなるかな？」

「やっやめろ……やめてくれー！」

「うっかりフルバーストスラッシュユ！」

うっかり、エクスカリバー級の剣を消費して放たれる斬撃波は、フェアリルゴールをレジエンドフェアリーソードごと切りつけました。

「ガツハッ」

バタツ

「レジエンドフェアリルが負けるなんて……」

「やばい、逃げるぞ」

リルリルフェアリルたちは、瞬く間に逃げていきました。

ペネロペは、うっかりリルリルフェアリル達を、

やっつけてしまいました。

「えへへ、私って、強い」

ペネロペは、嬉しそうに笑います。

しかし、この時のペネロペは、知りませんでした。

この世界には最強の犬がいると……